

ごあいさつ

私たちのふるさと霧島市は、平成17年11月7日に1市6町の合併により誕生し、新たなまちとしての歴史の扉を開いてから早や7年が経過しました。

これまで、本市は、平成20年3月に策定した市政の最上位計画である第一次霧島市総合計画の下、「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」をまちづくりの基本理念とし、まちの将来像「人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市」の実現を目指して、様々な政策・施策等に取り組んでまいりました。

この間、国・地方を取り巻く状況は、少子高齢化の急速な進行、グローバル化の進展、地球規模の環境問題に加え、著しい社会経済情勢の変化など、これまで類をみない急激な変化が加速度的に進み、大きな転換期を迎えています。

本市においては、これまで生活基盤の整備や雇用・定住の促進などに加え、増健・教育など成果が現れるまで一定の時間を要する分野の施策等にも積極的に取り組んできた結果、県全体の人口が減少する中で本市の人口については微増を保っておりますが、中山間地域においては、徐々に過疎化・高齢化が進行しています。また、財政面においても、市税をはじめとする自主財源の大幅な増収が見込めないことに加え、合併特例措置により増額されている普通交付税の段階的な削減が見込まれているなど、厳しい状況が続くことが予想されます。

しかしながら、今後におきましては、平成23年3月の九州新幹線鹿児島ルートの特設全線開業に合わせた各種取組の拡大、世界ジオパーク認定や国民文化祭鹿児島大会に向けた取組など、本市がさらなる飛躍を遂げるために極めて重要な時期を迎えることとなります。

このような状況の中で、第一次霧島市総合計画における前期5年間の対象とした基本計画期間が平成24年度をもって満了することから、新たな時代の潮流を的確に捉えるとともに、様々な課題を克服し、今後のまちづくりの方向性を示す新たな羅針盤として、このたび、後期5年間の対象とした基本計画を策定しました。

本計画では、第一次霧島市総合計画で掲げたまちの将来像の実現に向け、前期基本計画の成果を検証し、現状を把握した上で、今後5年間のまちづくりの課題を整理しており、これを解消するための各種施策・基本事業に取り組んでまいります。また、本計画の推進に当たりましては、前期基本計画に引き続き、市政全般にわたる施策を体系化し、市民と行政との協働によるまちづくりや効果的かつ効率的な行政運営を行うために「行政評価」を活用してまいります。

本計画は、行政側の努力だけでは推進することができず、市民一人ひとりが、快適で愛着の持てる安心・安全な我がふるさとの実現を目指していただくことではじめて実現する計画となりますので、市民の皆様の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本計画の策定に当たり、熱心に御審議いただきました総合計画審議会委員をはじめ、貴重な御意見や御提言をいただきました市民の皆様方、関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

平成25年3月

霧島市長 前田 終止

